

気象遭難対策講習会2017 レポート

2017/7/11(火曜日)、名古屋市/愛知県スポーツ会館において、気象遭難対策講習会2017を開催しました。参加者は、総勢24名(愛知岳連会員:12名、愛知岳連会員外:7名、講師・役員など:5名)でした。講師は、大矢康裕氏(山岳気象予報士、ウェザーフロンティア所属、デンソー山岳部所属)にお願いしました。



第一部 基礎編

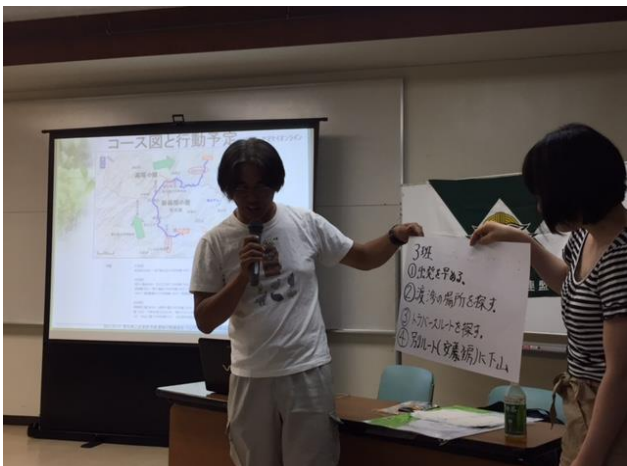
山の天気の基本、地上天気図の見方、観天望気インターネットを使った気象情報の活用法などについて登山者の視点から、わかりやすく教えていただきました。

第二部 応用編「最新の遭難事例に学ぶ」および「遭難を疑似体験してみよう 実習(DIG)」は、面白くてとてもためになりました。

・最新の遭難事例に学ぶでは、屋久島で1か月前に起きた遭難事故を取り上げて、増水した沢での渡渉の怖さを肌で感じました。

・遭難を疑似体験してみよう 実習(DIG)では「屋久島をトレッキング中の6人パーティー(女性2名、新人男性2名含む)が、悪天情報入手した」と想定して「これからどう行動するか」を3つのグループに分かれて討議した後、発表しました。

普段から、悪天などに遭遇した時にどのように行動するかを考える訓練をしておくことは、いざという時に慌てないためにとても大切だなあ…と実感しました。



第三部 今夏の天気の見通し

①中部山岳の梅雨明けは、ほぼ平年並みとなります。

②梅雨明け後の中部山岳は、平年よりも晴れの日が多い見込みです。
⇒積乱雲の動きに注意しましょう。上空に寒気がある場合午前中でも雷が発生することがあります。

③台風が接近すると、太平洋側の高気圧が弱まる可能性があります。
⇒台風の進路に注意しましょう。

◎夏山山行プランを考えるうえで、とても参考になりました。



遭難事故を他人事と思わず、自分事(自分ならば、どう対処するか)と考えることが、防災への第一歩です。気象遭難は、気象の知識もさることながら、判断力・山行技術・基礎体力などが要因となっていることが多い。日ごろから山で事故に遭わないように心がけて、登山を愉しみましょう。

今回の気象遭難対策講習会や春と冬におこなわれる遭難対策会議などで講師を務めていただいている大矢氏は、長年にわたる山岳防災活動が認められて、6/17に気象庁で行なわれた気象予報士会総会において、栄えある石井賞を受賞されました。山岳気象や山岳防災の分野では初めての受賞となります。おめでとうございます。

今後ますますご活躍されることを期待いたします。

報告者:愛知岳連・常任理事/岩瀬